

へてじゃーなる



OG/OB と学生を結びながら、懐かしさと新しさ香る筑波の風を季節の便りとしてお届けしていきます。

INDEX

1. 秋に色づく万博記念公園 / 川上 真生
2. 来日直後の生活立ち上げ支援——留学生チューターの仕事 / 加藤 緑
3. 筑波大学の外周って何キロ？——実際に歩いて検証してみた / 川畑 悠成
4. イベントの秋 ～風物詩「筑波山御座替祭」「第 100 回土浦競技花火大会」「野田市空まつり」に行ってきました～ / 結城 希



1. 秋に色づく万博記念公園



■ 8月過ぎたら大晦日

好んで聞いているラジオ番組から聞こえてきた「8月過ぎたら大晦日」という言葉をかみしめています。耳にしたのは晩夏のころ。大晦日が1カ月後に控えている現実を受け止めながら、時の速さを感じます。「大晦日はゆっくりと年を越せるのやら」。もっぱら目先の関心事は卒論を1月末までに無事提出できるかどうかです。

■ 天3は満州からの引揚者に当てがわれた？

当初は全く違うテーマで書くつもりでした。というのも「天久保3丁目（天3）の土地は満州からの引揚者に当てがわれたらしい」という話を聞いたからです。筑波キャンパス全体図を見ると天3だけ不自然に凹んでいます。これは満州から引揚げてきた人たちと土地接收の交渉がうまくいかなかったためという背景があるようで、これはぜひ確かめたいと考えました。

ところが、ネットや文献を当たってみてもこれといった情報はなく。筑波大学アーカイブズの方から「天3に点在している民家に聞けば分かることがあるかもしれない」とアドバイスをもらい、実際に訪ねてみました。すると「父が満州から引き揚げてきたと聞いている」という方に出会うことができました。しかし、お父様は約50年前に他界されているということでその経緯を含めた詳しいことは分からず……。結局、この話題は見送って別のテーマで執筆することにしました。（この話に関して、何かご存知のOBOGの方がいらっしゃれば、ぜひとも教えていただきたいです。）

■ 夏に敢行 西日本周遊！

代わりにどんなテーマで書こうかと頭を捻っている時、冒頭で紹介した言葉を思い出しました。「今年の夏は暑かったな」「8月は西日本を旅したな」。8月4日から8月11日の約1週間、サンライズ瀬戸の終着点である香川をスタートに、丸亀→広島市内→尾道→西明石→大阪と周遊しました。普通に旅するのも面白くないので、品川宿で一目惚れした昔ながらの甚平と下駄を身に付けて。甚平は風通しが良く、下駄は汗を吸ってくれるので気持ちよく旅することができました。尾道の千光寺では「次は一本歯下駄（天狗が履いているような歯が一つしかない下駄）にしてみんさい」と言われたり、趣味の駅スタンプを押している姿が「江戸の刷り師みたいでおもしろい」と友人にいじられたりしたのも良い思い出です。



江戸の刷り師に見えますか？

■ 大阪・関西万博

旅の一環で8月9日に訪れたのが「2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）」です。猛暑にもかかわらず会場はかなりの賑わいでした。筆者の目当ては、かつてのクラス担任だった

秋山肇助教（筑波大）が登壇する「万博で考える平和と人権：平和はいかに実現し、人権はいかに保障できるのか？」と題したシンポジウム。平和を議論していくにあたって、戦争という直接的なテーマのみならず科学技術や性的指向、学校教育、難民などの視点も含めて議論する点がユニークでした。

■今年につくば科学万博から40周年！

ここから本題へ入っていきたいと思います。大阪・関西万博が開かれた今年、実は1985年に開催された「国際科学技術博覧会（科学万博-つくば'85）」（以下、つくば科学万博）から40年の節目にあたることは皆さんご存知だったでしょうか。筆者はエキスポセンター前に掲げられた「つくば万博から40年 今年は大阪！」との40周年ポスターで気づきました（閉幕後は手書きで「成功おめでとう！」「ミャクミャクおつかれ！！」とのメッセージが添えられています）。万博関連でテーマを探していた際、長距離ランニングが趣味の友人から「万博記念公園のイチョウがきれいだったよ」と聞き、早速11月19日に現地へ行ってみました。



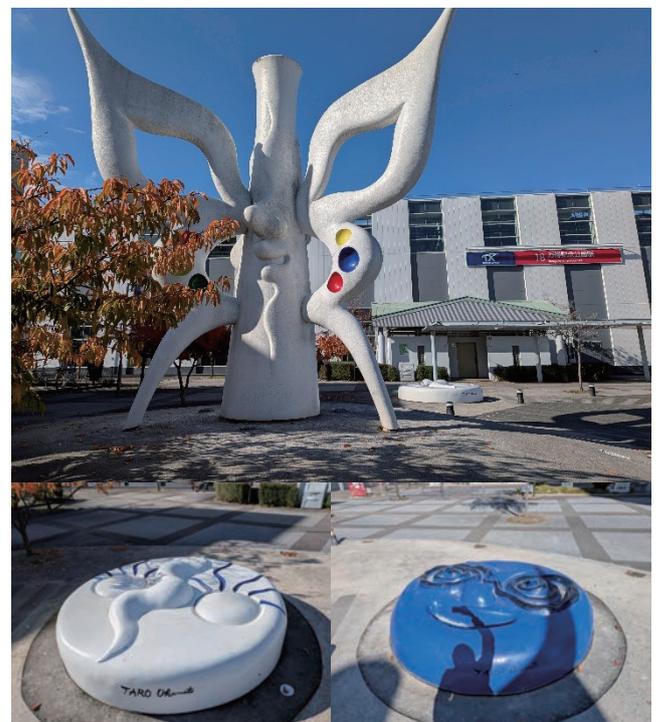
エキスポセンター前のポスター

■岡本太郎作「未来を視る」

前日の紅葉情報は落葉中（残り6～5割）。ぎりぎり葉が残っていることを祈りながら出発しました。今朝の最低気温は-0.8℃。今シーズン一番の冷え込みで、晩秋を飛び越えて真冬に近い気候でした。頬が凍てつくような寒さが残る午前9時半過ぎに出発しました。空はうっすらと雲がかかるものの気持ちの良い秋晴れです。通勤ラッシュ後で人がまばらなつくばエクスプレス（TX）に乗り、6分ほどで万博記念公園駅に到着しました。

駅を出て早速、出迎えてくれるのが岡本太郎作の「未来を視る」。太郎は1970年の日本万国博覧会のシンボル「太陽の塔」であまりにも有名ですね。このモニュメントはつくば科学万博を記念して太郎が制作したもので、2005年のつくばエクスプレス開業を契機に駅前広場へ移設されたそうです。調べると「科学を究める人間の像を、3つの顔をもち透明な眼で世界を見すえる像として表現した」とのことでした。

実は大学1年生（4年前）の11月に自転車でここを訪れたことがあります。大学への馴染めなさを感じ、自分に自信が持てなかった当時、



岡本太郎作の「未来を視る」

周囲を気にせずありのままを表現していけばいいのだと励まされました。以来、太郎の存在が自分にとって支えになっているような気がしています。

■黄金色に輝く銀杏並木

駅から万博記念公園までは徒歩約30分の道のり。栄えているのはホテルやスーパー、不動産会社などがある駅前くらいで、少し歩くと田畑の広がる田園風景になりました。手前に田畑、奥にTXの高架が伸びる風景は田舎と都市の融合という感じがして、不思議でした。途中にあった「第六天神社／面足神社」に寄り道してその由来を見たり、ロケットが描かれたつくば市のオリジナルマンホールを見つけたりしながら、10時半頃に到着しました。

早速目に飛び込んできたのは今回の目的でもある「銀杏並木」。やや落葉ぎみだったものの、落ち葉が黄金色の絨毯のようになり美しい並木道となっていました。平日の午前中にもかかわらず、人の多さが目を引きまします。芝生広場が隣接しており、広場のベンチでくつろぐ親子や老夫婦、

並木道ではスマホを手にシャッターを切る人たちでにぎわっていました。



見ごろを迎えた銀杏並木
ハート型に集められた落ち葉も

飼い犬を連れて散歩する

■当時の会場の一部が公園に

万博記念公園は万博会場全体の約6分の1程度にあたるDブロックの区画が整備されて現在は周辺住民の憩いの場所になっています。当時の会場図を見ると、Dブロックは湖や広場があり、公園のような機能を果たしていたことがうかがえます。

北側の端まで歩くと、ひときわ目を引く高さ10mの「科学の門」がありました。日本政府出展のテーマ館にあったシンボルトワーを約4分の1サイズにし、1988年に建てられたとされています。その真下の地面には当時の会場図がありました。中央は朽ちていて内容が見えにくくなっていたものの、右下には当時の開催情報がありました。特に目を引いたのが、「総来場者数約2033万人」という数字でした。これは当時の認定博として史上最多を記録したとされています。登録博は大規模で総合的なテーマを扱うのに対し、認定博は規模が小さくテーマが特定の分野に絞られているもので、今年開催の大阪・国際万博は前者にあたります。当時の熱狂ぶりを裏付ける数字だと感じました。



「科学の門」

■イチョウに集う人々

公園内を一周した後は銀杏並木周辺に集う人々の様子を観察していました。しゃぼん玉を使って歓声を上げながら遊ぶ親子もいれば、椅子に腰かけてじっとイチョウを観る老夫婦。イチョ

ウを背景に自撮りするカップル——。銀杏並木からは少し離れたベンチに座る老夫婦に声を掛けると、膝を休ませるために休憩している最中でした。イチョウを目当てに毎年、常総市から車で訪れているようです。つくば科学万博にも当時40代の時に訪れたそうで「家族や地域の人と2～3回は来場したね。会場は大混雑でいち早くパビリオン入場の順番を取ろうと急いだなあ。たしか女房が遅れてはぐれてね」（夫）「あんまり覚えてないね。たしか海外のパビリオンでウォッカを購入したのは記憶にある」（妻）と懐かしそうに語ってくれました。その後、こちらに手を振りながらゆっくりとした足取りで立ち去っていきました。



総来場者数などが記された地面

広場の中へ目をやると鬼滅の刃の人気キャラクター「煉獄杏寿郎」の姿で寝転ぶ人がいました。幼い子どもが駆け寄ってくると「やあ、かわいいな！うむ」と会話しています。どうしてこれほどなりきっているのか気になってお話を聞いてみました。



イチョウを背景に煉獄杏寿郎のポーズを決める
望月さん(活動名)

を聞いてみました。望月さん(活動名)という方でこの日は坂東市からイチョウを背景に写真を撮ろうと訪れたそうです。3年前、真っすぐで太陽のように明るい煉獄杏寿郎の性格に惹かれて以来、週に約1回の頻度で変身していると教えてくれました。よく県内外の観光地を旅したりグルメを食べに行ったりしているそうです。「煉獄杏寿郎は作中で黎明に散ってしまったけれど、コスプレをして美味しいものを食べたり、景色を見たりすることで、一緒に楽しんでいる気持ちになれます」。

その回答を聞いて自分は今を楽しめているかどうか突き付けられた気がしました。人の目を気にせず自分が楽しいと思うことを貫き通す姿にはっとさせられる出会いでした。

万博記念公園のイチョウは例年、11月下旬頃までが見ごろだそうです。イチョウに集う人々の姿や語りからは人生や個性の一端が垣間見えるようでとても学び深い

時間でした。

■参考文献

万博で考える平和と人権：平和はいかに実現し、人権はいかに保障できるのか？

EXPO2025Theme Weeks アジェンダ2025共創プログラム

<https://theme-weeks.expo2025.or.jp/program/detail/67c123ff491e5.html>

(最終閲覧：2025年11月22日)

つくばエキスポセンター 科学万博-つくば'85「40周年記念展示」

<https://www.expocenter.or.jp/event/detail/id=4272>

(最終閲覧：2025年11月22日)

ウィキペディア 国際科学技術博覧会

<https://x.gd/QGi9UL>

(最終閲覧：2025年11月22日)

News Plaza 万博の「登録博」と「認定博」の違い

<https://plazamayor.jp/archives/15>

(最終閲覧：2025年11月22日)

「つくば万博」の会場マップ

https://articles.mapple.net/cms/wp-content/uploads/2021/12/041-ibaraki_001.jpg

(最終閲覧：2025年11月22日)

新！つくば 昭和に科学ブームを巻き起こした「つくば万博」の足あとを探して

<https://new-tsukuba.jp/article/page000086.html>

(最終閲覧：2025年11月22日)

@ ART 岡本太郎 / 未来を視る

<https://x.gd/W8TST>

(最終閲覧：2025年11月22日)

ウェザーニューズ 科学万博記念公園

<https://weathernews.jp/koyo/spot/24026/>

(最終閲覧：2025年11月22日)

(社会・国際学群 社会学類4年 川上真生)

2. 来日直後の生活立ち上げ支援——留学生チューターの仕事



待ち遠しい秋がようやくやってきました。本稿を執筆している10月上旬、筑波キャンパスは曇りが続いていましたが、その後秋晴れに恵まれ、涼しい風と共に金木犀の香りが漂っています。

筆者は今学期、学生チューターとして留学生の新生活立ち上げをサポートしました。学生チューターを務めるのは今回で3回目です。最初の2回の話を変えながら、学生チューターの仕事内容とやりがいをご紹介します。

留学生チューターは年中募集されていて、希望者は専用フォームを記入すればチューターとして登録されます。その後、学生交流課や留学生の指導教員から依頼が来ます。仕事内容は主に宿舍入居、住民登録、銀行口座開設のサポートです。余力があればキャンパスの案内や履修登録の手伝いなどもします。

初めてチューターを担当したのは1年生の1月。このイレギュラーな時期（通常は4月か9月）に担当したのはウクライナから来日した避難学生2人です。戦地からやってきた2人はとても疲れているように見えました。必要なサポートは行いましたが、どのような言葉をかければいいのかよく分からず、あまり彼らに寄り添ったコミュニケーションが取れなかった気がします。

2回目は3年生の4月、アメリカから来た特別聴講学生を担当しました。とにかく自立心が強くなんでも自らこなしていくような学生でした。当時の筆者は忙しくて住民登録に同行できるのが少し先になると言うと、彼女は自分で市役所に行きました。その他のことも大体自分でやっていて、筆者が関わることは少なかったです。

2回ともサポートする側・受ける側の関係だけで終わり、今は連絡を取り合っていないです。それらの反省と去年から1年間留学した経験を生かし、今度こそより良くチューターとしての役割を果たしていきたいと考えました。

今回は香港出身で生物学類秋入学のAaronさんを担当しました。彼は9月中旬に来日し、秋学期から授業を受けています。来日前からメールでやり取りをし、つくばに来る日やその後のスケジュール調整を行いました。



クマとトナカイとAaronさん（イーアスつくばで）

初めて会ったのはAaronさんがつくばに来て、筆者がつくば駅で出迎えた時です。そこからつくばセンターに移動し、6番バス乗り場に向かいました。Aaronさんは日本で初めてバスに乗るということで乗り方を教えました。降りるバス停も伝えたあと、発車するバスを見送り、筆者は同じ目的地に向かって自転車で追いかけてきました。

『『追越宿舎東』で降りてね』と伝えたのですが、近くに人が見当たらず、Aaronさんがいないのです。これはまずい……。どうしようかと思ったその時、バスが次の「天久保二丁目」に停車し、Aaronさんが出てきました。「降車ボタンのことを知らなくて、『追越宿舎東』で降り損ねた」とのこと。「あ！そういえばボタンのことは伝えなかった」。ボタンを押して合図することは万国共通だと思っていました。

ともあれ、無事に宿舎に到着しました。Aaronさんが入居するグローバルヴィレッジ（グロービ）の事務所に行き、書類を記入して鍵を受け取りました。寝具は借りられるため、交換所に行って布団など寝具一式をもらいました。そして部屋に上がり、書類と寝具を置いて、中を見て回りました。

その後、2C棟に行って学生証と修学関連の書類を取りに行きました。Aaronさんは自転車を持っていなかったため、グロービから徒歩で行きました。途中、サクラテラス（カスミとサザコーヒーが入っているところ）、体芸エリア、大学会館、松美池、第一エリア、中央図書館などを通過しながら、一つ一つの場所を説明しました。

ところで皆様は体芸エリアにある変な看板に気づいたことがありますか？以下の画像をご覧ください。



「体芸」を意味する英語訳で、図書館のものは何の変哲もないのですが、食堂の看板が文字通り「体 (Body)」と「芸術 (Art)」になっています。しかもなぜか冠詞が付いていて、artが小文字なのも理解不能です。初めてこの看板に気づいた時はしばらく笑いが止まらなかったです。留学生にキャンパスを案内する際は必ずこの看板を紹介していて、筆者の中の「名物スポット」です。

少し脱線しました。本題に戻ります。

2C棟で職員の説明を受け、書類とITF.バッグ（筑波大学の校章などがプリントされたトートバッグ）が渡されました。その後またグロビに戻り、書類の記入に時間を費やしました。宿舎や履修関連の書類を大量にもらったAaronさんを見て、思わず3年前を思い出しました。入学当初の自分も膨大な数の書類に埋もれて、大学の各種システムへのログインやメールアドレスの設定、学内LANへの接続など手間がかかる手続きをたくさんした記憶が蘇りました。この日は緊急性の高い書類を記入してもらい、残りは後日に回しました。

次に会ったのは翌週の月曜日です。10時にグロビで待ち合わせて、その後一緒に市役所に向かう予定でした。当日は諸事情で来日したばかりの留学生2人（以降、「一の矢組」）も一緒に行くことになりました。一の矢組は一の矢学生宿舎からの出発だったため、筆者は先に宿舎のバス停でバスの乗り方を説明し、終点のつくばセンターで待ってもらいました。

バスに乗った2人を見送ったあと、Aaronさんとの待ち合わせ時間が迫ってきたためグロビまで自転車で爆走しました。1秒たりとも遅れられない気持ちでした。これほど必死なのには理由があります。

学生証と修学関連の書類を取りに行った時のこと。帰り際に職員から「次はオリエンテーションの時に来てください。○日の○時からですので、遅刻しないように。日本人は時間厳守ですからね」と言われました。

これを聞いてハッとさせられました。大学に入ってから講義に遅れてもさほど罪悪感がなく、友人との待ち合わせにも「ごめん5分遅れる」などと時間にルーズになっていた自分にその言葉が響き、身が引き締まる感じがしました。

自分が一種の「日本人代表」になったようで、Aaronさんに遅れている姿を見せてはならないと思いました。そして無事に10時の数秒前に到着したところ、ちょうどグロビからAaronさんが出てきました。

そこから自転車でつくばセンターまで行き、一の矢組と合流しました。改札前で切符の買い方を教え、つくばエクスプレス（TX）で研究学園駅まで行きました。

市役所で住民登録をするのですが、まず目に入ったのは記載台と番号札発行機に書いてある表示です。なんと「筑波大学留学生はこちら」が矢印と共に示されていました。2年前に行った時はそういう表示がなく、どこで何をすればいいのか分からず何度も職員に聞いた覚えがあります。

表示があったおかげで今回はスムーズに始められました。留学生3人に申請書類を記入してもらい、番号札を取って呼ばれるまで待ちました。この時期に来日する留学生が多く、待合スペースには留学生とチューターと思われる学生で溢れていました。

窓口では英語対応の職員が一の矢組2人分の手続きを同時に行いました。Aaronさんの番になった時は筆者が通訳しながら手続きを行いました。住民登録は無事に完了し、その後携帯電話の契約をするため市役所の近くにあった家電量販店に向かいました。

SIMカード一つを契約するだけでも携帯電話会社やプランが多数あり、とても複雑でした。留学生の要望と店員の説明で30分ほどかかり、最終的には留学生の希望で後日オンライン申請することにしました。店を後にし、お腹を満たすためイーアスつくばに向かいました。

フードコートで昼ご飯を食べながらお互いの文化などについて意見交換し、有意義な時間になったと感じます。とりわけ日中関係をはじめとする世界情勢は筆者の興味分野だったため、ある意味それぞれの立場から聞く生の情報はとても勉強になりました。

食後、イーアス内の店を適当に見て回り、しばらくして大学に戻りました。当初は銀行口座の開設も行おうと考えましたが、携帯電話の契約などで思った以上に時間がかかり、大学に戻った時点で銀行は既に閉まっていました。

口座開設は後日オンラインで行いましたが、不在票から始まるキャッシュカードの受け取りが思った以上にトラブルが多く、2カ月ほど経過してようやく入手したようです。

初来日の生活は言語や文化の壁でつまづくことがしばしばありましたが、総じて順調に進んでいるようで何よりです。これからの4年間、つくばでの楽しくて充実した生活が送られることを願います。

冒頭でも書いた通り、今回はチューターを務める3回目です。過去のチューター経験と、2回目と3回目の間に自分も留学生として異国の地に渡った経験があったから、最初の2回よりもはるかにスムーズに対応できたと感じています。学籍上、今回がチューターを務められる最後の機会でした。ちょっと大げさかもしれませんが有終の美を飾ることができた気持ちです。

(生命環境学群 生物学類4年 加藤緑)

3. 筑波大学の外周って何キロ？——実際に歩いて検証してみた



突然ですが、みなさん。筑波大学の大きさがどのくらいか知っていますか？よく言われるのは、南北5キロ、東西1キロの258ヘクタール。建造物で例えると、東京ドーム55個分、東京ディズニーランド5個分程度だそうです。「いや、分からんがな」と言うのが皆さんの意見だと思います。

実際私も、筑波大に2年弱通っていますが大学の一番北までは行ったことないですし、授業で使ったことのないエリアもたくさんあります。初めて大学に来た時はどこに何があるかすら分からず、迷子になっていたことを覚えています。

そこで今回は皆さんに筑波大の広さをお伝えするべく、筑波大の外周を実際に全て歩いてみました。その体験記をここでお伝えして、今後の参考にさせていただければと思います。普段は筑波大のOB・OGの方向けの読み物ですが、今回はどちらかと言えば、これから筑波大に入学するか、筑波大を志している人向けのものになってしまいましたが、ご了承ください。



図1 筑波大の全形、かなり大きいです。

○キャンパスの最南端、春日エリア

つくば駅から徒歩10分程度歩くと見えてくるのが筑波大の春日エリアです。春日エリアは元々、図書館情報大学と呼ばれる別の大学でした。しかし、2002年に筑波大と統合され、今では筑波大のキャンパスになっています。

今回は春日エリアを正面に見て右回りで歩き始めました。私は知識情報・図書館学類の学生なので、日ごろからこのキャンパスを利用しています。いつもキャンパスを徒歩で移動しているので、春日エリアのサイズ感はしっかりと理解しています。

そして、今回の距離、歩数の計測方法についてですが、スマホのウォーキングアプリとアナログのカウンターを使いました。普段は引きこもってばかりの生活を送っているため今回初めてウォーキングの距離計測アプリをダウンロードしました。歩き始めた時間は11時過ぎか

らです。

実際に歩いてみて春日エリアの外周は整備されていて、ウォーキングにはもってこいの環境だと思いました。

1000 歩地点は学園西大通りと北大通りの交差点で迎えました。まだまだ余裕です。余談にはなりますが、春日エリアの学園西大通りに面している側に、隠れた入口があります。森の中に突き進んでいく感じで、街灯も全くないので少し怖いですが、この道を出ると通称、「図書館情報大学のお墓」を見ることができます。



図2 春日エリアの隠れた入口

○春日エリアの結果

歩き始めて 20 分程度、春日エリアを 1 周することができました。距離は 1.37km で歩数は 2100 歩でした。どこの道も歩きやすかったので、ウォーキングやジョギングをしたい人にはかなり適しているコースだと思いました。

私の足もこの時は余裕でした。そう、この時までは……。

○果たして何キロ……？本学編

いよいよ本学エリアです。春日エリアとは違いかなり広いです。私は第一エリアの近くにある共同利用棟 D というところを課外活動でよく使っています。そこから家がある春日エリアまでたまに徒歩で帰るのですが、その時でも 1 時間程度で帰ることができます。しかし、今回は外周を歩くため、普段の共同利用棟 D から春日エリアまで歩くのとはわけが違います。

歩く前に距離の予想を立てました。筑波大のキャンパスの大きさが縦に 5 キロ、横に 1 キロなので、外周になるとちょっと距離が増えて本学だけでも 15 キロくらいと予想しました。

○レッツウォーキング

スタート地点は松見口にしました。松見口を正面に見て左回りで歩きます。まず見えてきたのが医学エリアです。医学エリアには附属病院を始めとして IIS（トリプルアイエス）や陽子線治療棟など新しいの建物ばかりで、とても筑波大とは思えないような外見です。



図3 スタート地点の松見口

かなり飛んでしまいましたが、5000 歩地点まで来ました。道を挟んだ隣には筑波技術大学の春日キャンパスがあります。大通りからは離れたこともあり、先ほどの医学エリアとは一変して、すごく静かになりました。また、木々も生い茂っています。



図4 きれいなイチョウ

ここから最北端の一の矢に向けて北上していきます。この大学沿いの道はおそらく名前がついていないのですが、かなりおしゃれな雰囲気ので結構好きです。きれいに色づいたイチョウを見ることができ、歩行者専用の道があることも良いです。

このあたりで歩き始めてから2時間弱が経過し、お腹が空いてきたので、お昼休憩にしました。今回のお昼ご飯は「麺屋 秀彬^{ひでよし}」で食べました。醤油や塩、鶏白湯などの味があるラーメンで、細ストレート麺を使用しているラーメン屋さんです。私の故郷の広島ではラーメンは細麺が主流でした。しかし、つくばに来てから細麺のラーメン屋さんを見つけることができなかった時にたどりついたのがこのラーメン屋さんです。そこから秀彬にハマりました。私のおすすめは鶏白湯です。ただこの日はすっきりとした味を求めていたので、醤油ラーメンを食べました。

お腹をばっちり満たしたので、歩きます。ここからは一の矢を目指してさらに北上していきます。ちなみに、この時点で時刻は13時半です。今回のウォーキングの中で一番怖かったのがこの道路です。特に名前の付いていない通りなのですが、歩道がなく道幅も4、5メートルほどでかなり狭くなっていて、車がビュンビュン通ってきます。ここはウォーキングするのに向いていないと思いました。しかもこの通りはかなり長く、40分くらい景色が変わらない道を歩きました。



図5 かなり狭かった道路

ただひたすらに森でした。



図6 森の小道

この通りで唯一面白かったのが、小道を見つけた時です。恐らく、先人たちが何度も通ることのできたであろう道がこの何もないところがありました。この小道の先に何かあるのか気になり入ってみると、道を抜けた先には第一エリアの研究基盤総合センター（分析部門）がありました。先人たちが頑張って開拓して近道を作成したのだと推察します。

やっとの思いで筑波大の北側まで到達することができました。ここまでで約9100歩です。このあたりから若干の疲労を感じ始めました。

北側の道はひたすら森でした。1kmもなかったと思います。ただ、この北側の道でカウンターの上限である9999歩に到達しました。

カウンターを9999まで押すことは滅多にないのでちょっと嬉しかったです。

これからはスタートした地点を目指してひたすら南下していきます。私は大学の最東が学園東大通りだと思っていました。しかし、馬場が東大通りの道路向こうにあることを知りました。もちろんそこも歩きました。このあたりから「足が棒になる」の一步手前の状態くらいになりました。膝の裏の筋が大分張ってきて少し痛かったです。また、日が傾いてきて、日没とのチキンレースでした。

馬場を歩ききり、東大通りに出ました。東大通りは大通りと言うくらいなので歩道も道幅がかなり広いです。ウォーキングに最適だと思います。また、この時期はとっても紅葉がきれいです。

筑波大のT字モニュメントも見ることができました。モニュメントは大学HPとかで見るとはあっても実物を見ることはあまりなかったので、この機会に訪れることができ、良かったです。ちなみにこの時点で、15時ほどです。



図7 T字モニュメント

いよいよラストスパートです。追越から松見口に向けて歩いていきます。この時の足は既に棒になっていましたが、気持ちで歩きました。最終結果は何キロになったのでしょうか。

○待望の結果

本学エリアの結果は 12.89km で、歩数は約 15000 歩でした。普段、よく歩くことがあっても休憩しながら歩くことが多いので、連続的にこの距離を歩き続けるのはなかなか大変でした。途中、道が狭いところもあったので、ウォーキングには少し向いていないと思いました。みなさんも本学を一周する際には気を付けてください。ちなみに終了時刻は、16 時でした。



図 8 今回かかった歩数

そして、本学エリアと春日エリアの結果を合わせた筑波大の外周と歩数は、「14.26km、18480 歩」でした。これまであまり正確な情報が出ていなかった筑波大の外周の距離を私の実体験で証明しました。要するに筑波大の外周を 3 周すればフルマラソンの距離ということです。

私はもう外周を歩くのはいいと思っていますが、在学中にこのチャレンジができたことは良い経験になったと考えています。ただ、私の目標は「つくばから東京まで歩いてみた」なので、いつかこちらのほうにも挑戦してみたいと思っています。

最後までご愛読いただきありがとうございます。最近運動不足の方は、これを読んでぜひウォーキングに挑戦してみてください！

参考文献

・筑波大学キャンパスマップ (https://www.tsukuba.ac.jp/images/pdf/ut_map_tsukuba.pdf) (最終閲覧：2025/11/28)

(知識情報・図書館学類 2 年 川畑悠成)

4. イベントの秋

～風物詩「筑波山御座替祭」「第100回土浦競技花火大会」「野田市空まつり」に行ってきました～



こんにちは。もう秋というか冬に差し掛かっている曇り気味で、夏に比べて秋という季節の弱弱しさを感じる今日この頃ですが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。冷房も暖房も付けなくて丁度良かった日はほんの数日だったように思えます。

今回は、そんな変わりゆく季節の風物詩として、11月1日に「筑波山御座替祭(おざがわりさい)」と「第100回土浦競技花火大会」、11月16日に「野田市空まつり」を見学してきたので、そのご報告をしようと思います。

■筑波山御座替祭(11/1)

皆さまは「筑波山麓秋祭り」というイベントをご存じですか？

私も偶然チラシを見て知ったのですが、10月末から11月初めの週末にかけて、つくば市北部の色々な地域で秋の催し物が開かれているみたいです。

私があるチラシを見ていると、その中に見慣れない文字があることに気づきました。筑波山のふもとに書かれた「筑波山神社 御座替祭」です。詳細を調べたら、誰でも神輿が参道を歩いていくのを見学できるみたいでしたので、興味を惹かれた私は行ってみることにしました。



筑波山御座替祭は、毎年4月1日と11月1日の年2回行われる筑波山神社の例大祭です。「御本殿の神衣祭(かんみそさい：神様の衣替え)、拝殿の奉幣祭(ほうべいさい：幣帛をたてまつる)、神幸祭(じんこうさい：山頂神衣祭で撤せられた御神威が満ち満ちた前期の神衣を神輿に納め氏子区域を渡御し、地域の発展と家々の平穏を祈る)」の三つのお祭りから構成され、筑波山で最も大きく重要なお祭りみたいです。

内容は、春と秋で山頂の御本殿と中腹の拝殿にある親子神の神座を入れ替え、豊作を祈るといったもの。大きな神輿を担いで移動する必要があるため、筑波山麓の住民や学生が協力してお祭りを運営していました。地元の方によると、どうやら子供の神を夏は涼しい筑波山の御本殿に移し、冬は暖かい中腹の拝殿に移す儀式とのことでした。その話を聞いて、「親の神は暑さにも寒さにも耐える必要があるんだなあ」とか、「親子一緒に動いちゃダメなのかな」などと考えていました。



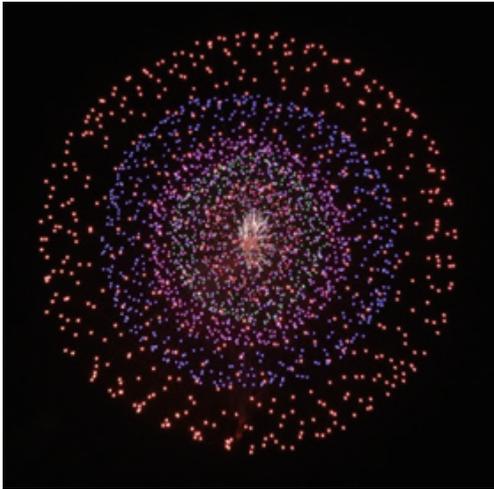
私は14:30に神輿が参道途中の「一の鳥居」(六丁目の鳥居)から出発し、16:30に神社拝殿へ到着するまでの、神幸祭の渡御行列を見学しました。当日は気持ちのいい秋晴れで、集まった祭りの参加者や見物人含め、かなり賑やかな雰囲気でした。

祭りの参加者はおよそ200人とのことで、法被や儀式用の装束を纏った人たちや地元の方々が神輿を中心に長い列となり、雅楽の演奏の下参道を歩いていく姿は壮観です。

先頭には赤い天狗の仮面を被った方が、刀を帯び、槍を持って歩いていました。どうやら猿田彦(さるたひこ)大神というらしく、神話にある天孫降臨の道案内をした神様が儀礼の案内者となっているみたいです。神幸祭で歩くのは勾配のある参道で、途中で何度か休憩を挟みます。そんな時には祭りの参加者や地元の方の懇談が始まり、なんとなく正月の初詣のような和気あいあいとした雰囲気になっていました。そんな時に、一緒に話していた地元のおばちゃんが「せっかくだから猿田彦大神と写真を撮ったら」と言い、思ったよりフレンドリーに対応してもらいながら猿田彦大神とツーショットを撮りました。



そのおばちゃんは4月1日の御座替祭に参加されたとのことで、「その時は大雨に見舞われて大変だった。祭りの開催は日付で決まっていて天候は関係ないから、今日は綺麗に晴れてくれてよかった」と話していました。



■第100回土浦競技花火大会（11/1）

神輿が拝殿に入っていくのを見守った後は、すぐに土浦へ移動しました。第100回土浦競技花火大会を見るためです。実は以前つくばに住んでいた父から、「土浦の花火大会は凄いぞお」と言われ続けていたのですが、日程が雙峰祭と被ってしまっていることもあり、これまで一度も行くことができていませんでした。しかし今回は100回目。絶対に凄いぞろという安直な考えの下、見物に行くことを決めました。

向かった先は花火会場である桜川ではなく、会場から少し南西にある上高津貝塚ふるさと歴史の広場です。なぜでしょうか。

それは私が花火大会に行こうと決めた10月半ばには、既に花火の有料観覧席の予約が終わり、河川敷で花火を見るのは混みそうだと判断したからです。そのため会場から少し離れますが、高台で綺麗に花火が見られると噂の貝塚広場に向かいました。

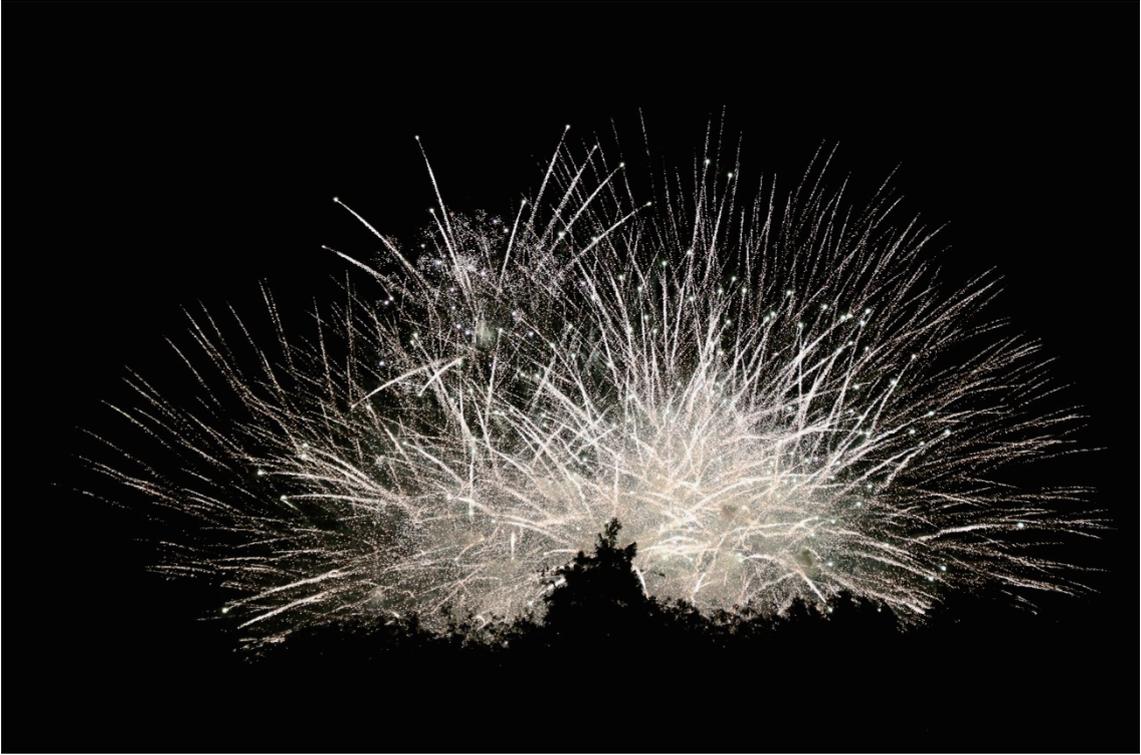
その判断は大正解でした。広場には沢山の人が集まっていたものの、広場自体が相当広いためのびのびと座る場所を決めることができました。花火が打ち上がる方角の木々も都合よく背が低く（もしかしたら花火のために剪定してる？）、ある程度以上の大きさの花火なら全て鑑賞することができました。

広場にはテントが張られている他に、ライブ配信しているビデオカメラや沢山の機材を持った人たちが居ました。配信確認用であろうノートパソコンの画面に映っている花火の写真は本当に良く撮れていて、私も頑張ってこんな写真を撮れるようになりたいと思いました。



さて、いよいよ花火の打ち上げです。17:30からのはずですが中々打ち上がらず、ヤキモキしていたところ、一本の光が空に向かって飛んでいきました。待望の花火です。球が弾けて花開いたときは、思わず「お～」と感嘆しました。そこからは多種多様で大盤振る舞いに打ち上げられた花火たちが夜空を彩りました。特に、大きな花火が連なって花開いた時は、空全体を覆うような迫力がありました。

雲一つない澄んだ夜空で、風も適度に吹き煙を流してくれたので、本当に花火が綺麗に見えました。



■野田市空まつり（11/16）

最後に、つくばからは少し離れてしまっていますが、ぜひ皆さまに紹介したい出来事があります。

Twitter（現X）を見ていたある日、『『メーヴェ』 ラストフライト』という投稿が目に入りました。

メーヴェとは、宮崎駿の漫画・映画「風の谷のナウシカ」に登場する架空の飛行機で、「メーヴェ (Möwe)」とはドイツ語

で「カモメ」を意味するみたいです。その言葉通り機体は生物的な美しさを持ったフォルムで、作中でナウシカが気持ちよさそうに空を飛ぶ姿に私も憧れました。しかし、メーヴェのような飛行機を現実世界で見たことはなく、あくまでフィクションの産物だと、動画サイトでとある機体を見るまでは思っていました。

あれ？ どういうことでしょう。

実はメーヴェを実際に作成した人が居るのです。「M-02J」と名付けられたそのジェット飛行機の姿形はメーヴェそっくりです。メーヴェの機体コンセプトを参考に八谷和彦さんという方によって作られた、実際に飛行可能な飛行機です。八谷さんは2003年からOpenSkyというプロジェクトで「メーヴェ」の作成を続けてきました。

しかし、M-02Jは世界中に一機しかありません。そして唯一のパイロットである八谷さんが飛行と本業との両立が難しくなってきたなどの理由で、八谷さん自身が行う飛行を年内で終えることを発表しました。一般公開最終日となったのが11月16日「野田市空まつり」です。

私は数年前にこのプロジェクトの存在を知り、メーヴェの飛行動画を見て感動していたのですが、まさか今年でラストフライトになるとは思ってもいませんでした。そして「実際に飛行を見ることのできるのは最後の機会かもしれない」と空まつりの場所を調べてみたら、つくば市から34kmと思ったより近く、せっかくなので行ってみることにしました。

午後の飛行予定時間が14:10で、会場に着いたのがその5分くらい前でした。ギリギリ間に合ったと思ったのですが、ジェットエンジン音が鳴り響き空には見たことのない機体の姿があります。メーヴェが既に飛んでいました。

真っ白な機体を輝かせ旋回するその姿はとても美しく、放たれたスモークは綺麗な弧を描きました。ジェットエンジンの爆音と作中のメーヴェのイメージはちょっと違う気もしましたが、本当にメーヴェの形で空を飛べるんだと感動しました。



やっぱり実際に現場に行って本物を見ないと分からないものがあります。



着陸態勢に入るメーヴェと並走して飛ぶ鳥 (左上)

その後メーヴェは会場である河川敷上空をもう一度旋回し、綺麗に着陸しました。無事に最後の一般公開飛行を終えたのです。ただ、もっと飛んでいる姿を見ていたいと自然に思いました。着陸して少し経ち、エンジンを止めた時は一抹の寂しさがありました。

八谷さんのnoteに「僕が飛ぶのは終わるけど、(まだ) 終わりじゃないです。」と書いてあるように、八谷さん自身が飛ぶことを辞めるだけで、次のパイロット育成や技術継承など、OpenSkyプロジェクトは続いていくみたいなので、これからの活動にも期待していきたいです。

■おわりに

色んなイベントに実際に足を運び、現場の雰囲気を見るというのはとても面白いです。今の世の中、インターネットを探れば写真や動画が簡単に出てくるイベントも多いですが、その場所に行ったからこそ感じる思いや感動があると思います。少なくとも、今回行った3つのイベントにおいては、現地に行った経験が事前に調べた情報の何倍も深く心に刻まれました。

沢山行ってみてよかったです。

■参考文献（すべて最終閲覧日2025/11/23）

●筑波山麓秋祭り2025

⇒<https://aki-fes29836.com/fes2025/>

●筑波山ジャーナル 「年に2回の筑波山神社例大祭「御座替祭」。令和初の大祭で古来の日本人の心を垣間見る。」 2019年12月23日

⇒<https://mount-tsukuba.com/journal/ozagawari2019autumn/>

●筑波山神社 年中行事

⇒<https://www.tsukubasanjinja.jp/about/index.html>

●野田スカイスポーツ振興会 空まつり 2025 in SEKIYADO NODA

⇒https://sora.c-arts.net/?page_id=3498

●ピクシブ百科事典 メーヴェ

⇒<https://dic.pixiv.net/a/%E3%83%A1%E3%83%BC%E3%83%B4%E3%82%A7>

●朝日新聞 金居達朗「風の谷のナウシカ「メーヴェ」モデルの飛行機 ラストフライトに歓声」2025年11月16日

⇒<https://www.asahi.com/articles/ASTCJ2D7CTCJUQIP017M.html>

●note 八谷和彦 「「終わりだけど終わりじゃない」～試験飛行終了についての補足。2025年11月13日

⇒<https://note.com/hachiya/n/ne0a93a3b06d9>

（社会・国際学群 国際総合学類3年 結城希）



編集後記

12月に入りキャンパスには冷たい筑波おろしの吹き込む季節となりました。木々は冬支度を整え、落葉が色鮮やかな絨毯をつくっています。つくば市周辺には複数の紅葉スポットがありますが、万博記念公園はその一つ。黄金色に輝くイチョウが美しい銀杏並木をつくっていました。筑波山神社では秋の年中行事「御座替祭（おざがわりさい）」が開かれたそうです。こうした四季を感じられるお祭りはこれからも続いてほしいと願います。中には筑波大の外周を歩いて検証するという足で稼ぐ記事もありました。その距離は14.26km。キャンパスの広大さを改めて感じました。秋学期の始まりは留学生の新生活がスタートする頃でもあります。留学生チューター制度は文化の違いを乗り越え、相互理解につなげる第一歩だと思いました。最近のニュースを見ながら「〇〇人」と人種や国籍で先入観を持つのではなく対等な一人一人として関係性を築くことが何よりも重要だと感じます。今号も最後までお読みいただき、ありがとうございました。

社会・国際学群 社会学類4年 川上真生



X (旧Twitter)、Facebook で筑波大学の情報を発信しています

事業・リレーション推進室では、大学や在学生の「今」を伝えるため卒業生に向けてX (旧Twitter)、Facebook でも情報を発信しています。

学生の様子、学内の景色や、大学の取り組みなどはもちろん、在学生・卒業生が交流できるような企画を増やしていきます。

卒業生が楽しんでいただけるお知らせやその他イベントについても告知していきますので、ぜひフォローをお願いいたします。発信してほしい情報がありましたらお知らせください。

 **筑波大学大学基金** <https://futureship.sec.tsukuba.ac.jp/>

Tsukuba Futureship (筑波大学) Facebook

<https://www.facebook.com/univ.tsukuba.futureship/>



TSUKUBA FUTURESHIP (筑波大学公式) X

<https://twitter.com/Futureship1>



編集・発行：「ペデジャーなる」編集ワーキンググループ

デザイン・配信作業：国立大学法人筑波大学事業・リレーション推進室

ご意見・問い合わせ先：国立大学法人筑波大学事業・リレーション推進室

〒 305-8577 茨城県つくば市天王台1丁目1-1

TEL 029-853-2030 FAX 029-853-6576



メールマガジンの一部または全部を無断転載することを禁止します。

©2025 University of Tsukuba.

 「ペデジャーなる」のバックナンバーはこちらから

➡筑波大学メールマガジン『ペデジャーなる』

<https://futureship.sec.tsukuba.ac.jp/alumni/pedeja/>

 配信先・ご住所などの変更は以下のフォームよりご登録をお願いいたします

➡登録フォーム <https://forms.office.com/r/0ndsbfM04q>